

幼稚園時代の追憶

成女學校長 宮 田 脩

さうですな、私がお茶の水の附屬幼稚園へ幼児

として通つてゐたのは随分むかしのことです。何

でも明治三年頃であつたらうと思ひます。その頃

は私の家は麴町區の富士見町にありました。何う

も古いことで其の時分のことには大部分忘れて了つ

て居ますが、その頃お茶の水の幼稚園はたしか今

の附屬高等女學校の後方で講堂の前あたりに保育

室が建てられてゐたやうに記憶して居ります。保

育室の前が勾配のついた芝原になつてゐて段々が

出來てゐました。而してこの芝原の所々に草花が

栽培せられて居ました。室外保育の時は何時も私

達はこの芝原で遊んだのであります。

その頃幼稚園で行つたことは粘土細工、折紙、

それから何と言ひましたか、何でも市松に紙をは

さむ細工物、豆細工などを記憶して居ります。

先生は獨逸の婦人で松野クララといふ方で、こ

の方が主として幼児の面倒を見て居られました。

クララ先生の外に尙保姆の方が二人居られました

が、お名前は忘れて了ひました。

保育室の出入にはその頃から既に、今行つてゐ

るやうに、ピアノが奏せられ、幼兒はその音に連

れて步調を整へたのであります。

私は毎日富士見町からお茶の水まで歩いて通ひ

ました。九段を下りて三崎町の方へ出て來るので

あります。その頃は三崎町がまだ廣い原つばで

兵隊が集つてよく訓練をして居りました。この練

兵場を突き抜けると水道橋です。水道橋を渡ると

松平伯邸のそばへ出ます。こゝから金比羅様の前

の坂を上つてお茶の水へ出ました。

幼兎時代のお友達は大抵忘れて了ひました、一人仲のよかつた友達を覚えてゐます、それは西郷従道さんの御子息でした、長男か次男かその邊ははつきりしません、何でも今はもう歿くなられたと思ひますが、その方がよく驢馬へ乗つて登園なさいました。この西郷さんとよく登園の途中水道邊に來ると一緒にになりました、すると私はよく西郷さんの馬を取り上げて了つて、そこから幼稚園まで乗つて行きました、西郷さんは笑ひながら後から跟着て來ました。西郷さんだけは斯んな風で驢馬に乗せてもらつたり何かしましたので、覚えてゐますがその他の人は殆んど皆今では思ひ出せなくなつてゐます。

私達はその頃よく幻燈を見せて貰つたことを思ひ出します。何でも本校の方の建物の一部だつたのだらうと思ひますが、煉瓦造の大きな建物の中へ私達は連れて行かれました。幻燈をうつして見

せるのですから無論暗いのです。私は暗いために初はいたく恐怖心を起しました、しかし奇麗な映畫を見せられ、面白い話を聞かせられて後は、私達は本校へ幻燈を見に行く日の來るのを楽しみにして待つやうになりました。

幻燈の畫は理科的のものが多かつたやうに覺えて居ります。畫の一つ一つは今では無論覺えてゐる譯がありませんが、何でも博物、理科といふやうなものに對して興味を感じさせられたといふ記憶だけは今も尙残つてゐます。

幼稚園時代の中で、今でも一番鮮かな印象となつて残つてゐるのは小石川の植物園に連れて行かれた時のことです。これは園から隊伍を整へて行つたことゝ思ひます。

幼い頭にはすべてのことが過大に感ぜられるのでありませう、その頃の植物園は森がこんもりと茂つて居て、大きな芝生が所々にありました。今植物園へ行きますが幼い頃に行つた植物園とは違

ふやうな氣がしてなりません、植物園そのものには太した變化もないのでありますが、それに對する私の感じ方が幼兒の時と今とは大いに違ふのであります。むかし行つた植物園は今よりも、もつと奥深い感じを與へました、ひろくとした感じを與へました。

私達は植物園の芝生で圓形になつて、「家鳩」や「風車」の唱歌をうたひ、遊戯をしました。何でも「家鳩」の遊戯をしてゐた時だつたと思ひます、時の文部大臣が——誰でしたかその時は無論知る筈がありませんが、その後になつて調べたこともありませんので矢張誰だか分りません。——私達の遊戯を植物園へ見に來られました。大臣はおみやげにパンと記憶して居りますがそれとも違ひますか、まア何でもお菓子を幼兒一同に下さいましたその時園の小使がお菓子を盛りあげた大きな箱を擔いで黒い森の間から出て來たことを思ひ出しません。私は友達二三人と共に小使の方へ駆けて行き

ました。すると「家鳩」で巢を形造つてゐた幼兒も鳩になつてゐた幼兒も皆遊戯の方はそつちのけにして了つて、わあつとお菓子の方へ駆けて行きました。私達は大臣のおみやげを喜んで食べましたその時大臣は私達がよろこんでお菓子を食べてゐる様を見て居られたか何うかは知りませんが、私達は非常にうれしかつたのであります。あの一日は實にうれしかつた、——今でも時々そんな風に思ひ出します。

今から幼稚園時代のことを追想してみると或る點は極めて強く、殆んど一生涯忘れはしまいと思はれる程強く印象されて居ります。これは幼い頃の純粹無垢の頭腦には少しのめづらしいことでも極めて強く印象されるものであることが分ります。幻燈を見に行つた本校の建物でも植物園の芝生でも森でも今眼の前に明々地と思ひ浮べることが出來ます。

當時は幼稚園生活と言はず、一般の社會生活が

非常にハイカラで、歐化熱が高かつたのであります。何しろ鹿鳴館時代でしたから、誰も彼も開化の魁たることを努めたのであります、それで幼稚園へ通ふ幼児なども大抵は洋服を着てゐました。お茶の水の幼稚園なども餘程西洋風の傾きを持つてゐたのであります。幼児の遊んだ遊園は後になつて考へると西洋の郊外の模様を聯想されるやうなつくりになつてゐました。

幼稚園時代のことを考へるとピアノの音が耳に聞えて來ます。さうです、幼稚園のおもひでは一面から言ふとピアノの音色です。小さい時分に日本樂も随分聞いた筈であります。今耳に残つてゐてその音を聞くと幼児の頃を思ひ出すといふのはピアノの音であります。幼稚園でマーチを奏する時に用ゐたピアノの音はあの頃の空氣を持つて一つ一つに高く鳴り出るのであります。(文責在記者)

○御題海邊の松

彦根幼稚園長 中澤とめ子作

磯の松清き水面に影うけて

浪のまに／＼緑ながるゝ

$\frac{2}{4}$

1	5		1	2	3		5	5	5		3	5	6	5	
イ	ソ		ノ	マ	ツ		キ	ヨ	キ		ミ	ノ	モ	ニ	
3	3	2	2		5—		5	6	5		1	2	3	2	
カ	ゲ	ウ	ケ		テ		ナ	ミ	ノ		マ	ニ	マ	ニ	
1	6	5		1	2	2	3		1—						
ミ	ド	リ		ナ	ガ	ル	—		ル						